

# 染色における表現の一方法について

## A study on Expressions Method for Basic dyeing

佐藤 武郎

Takeo Sato

### まえがき

ここに掲げた創作過程の一例は、染色実習における基礎的な表現練習についての一方法をまとめたものである。

本来、染色それ自身の特性が、模様を中心とした量産性をもつデザイン的表現によるものと、精神性を重視する芸術作品としての表現の二面をもつが、ここでは後者に属する作品としての発想と展開を試み、作品のための表現を捉えたものである。

発想から展開をとおしての表現のまとめ方を観ても解かるように、小中高の一貫した造形教育に繰り返えしみられる、身近な素材・観察描写、素描、彩画等を作業の過程の中に捉え、自然な表現と技法とを組み合わせる作品にまとめるよう意図されたものである。

染色の基礎学習的段階においては、餘り、染色の技法的制約に捉われず、これまでの美術学習的な創造態度で表現と技法を生かすことが望ましいように思う。

こうした基礎的な表現練習の段階を経て、染色に適応した表現と技法が理解できるように工夫すべきではなからうか。その主旨から、下記の方法を述べてみたい。

### 発想から展開への過程

- 図1 生活周辺の材料をモチーフとする。ここでは空き缶をモチーフに選んでみた。無数の缶の中に、破損し歪曲した缶や各々異なる形態・色感・質感などに、造形的な個性のある表情を発見し、造形美や新鮮な視覚を追求する手掛かりにするとよい。  
無数の缶にも、破損し歪曲した缶にも、各々異なる形態や色感、質感などに造形的な個性ある表情を発見し、造形美や新鮮な視覚を追求する手掛かりにするとよい。
- 図2 無数の空缶類の中から、慎重に比較検討しながら、造形的なまとまりの美しい物を選び出し、素材とするよう心を砕くことが、審美的感覚の練習につながる糸口になる。
- 図3 ① 表面的な観察に終らず、その物だけがもつ特徴や色彩感、形態、質感、実在感  
② 量感、立体感を精密に観察追求し、よく理解するために描写する。  
③ (ここでは図3(イ)をとりあげて展開させた)
- 図4 色彩を使用して量感や全体的実在感を描写することによって理解する。
- 図5 線のみを使用して全体的感じや特徴を単純化し要約的に捉える。
- 図6 素材のもつ特徴を失わないように、線で強調した素描。
- 図7 描写の展開図④と図⑥の感じを失わないように作品にまとめたもの。



図1



図2

○素描的特色を表現するために技法的には樹脂染料とロウと線描法を活用したものの。

図8 (イ)口型染(糊染)による。

素材の特徴を線的表现で捉えたもの。和紙使用、型紙の表現の仕方、面としての捉え方の例である。

図9 型染(糊染)による。

素材の特徴を線的表现で捉えたもの。和紙使用、型紙の表現の方法で、線を強調して捉えたもの。

図10 全体的な雰囲気表現効果として重視し、そのまま染色作品に移行出来るようにまとめたもの。

表現するのに紙・布の上に、ロウや型糊を使用することで、全く異なる効果が生ずるのを理解させることも大切である。また表現しようとする作品に、最適な染色技法を工夫させ、それが適確な表現に結びつくと言うことを指導するとよい。



図3 (イ)

染色における表現の一方法について

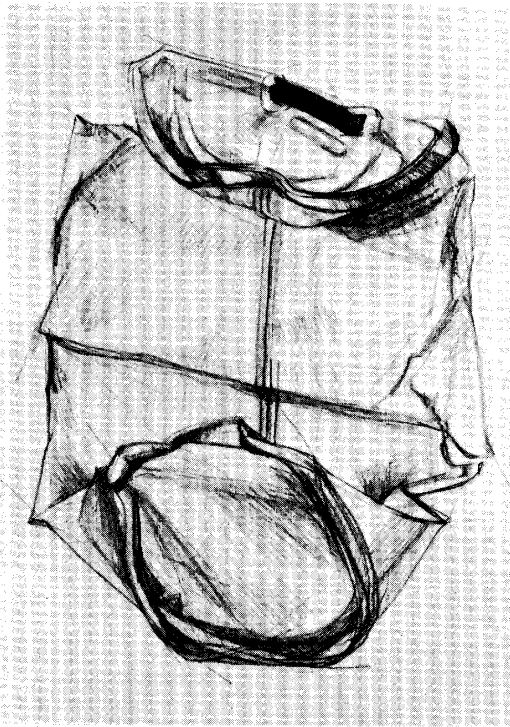


図3 (a)

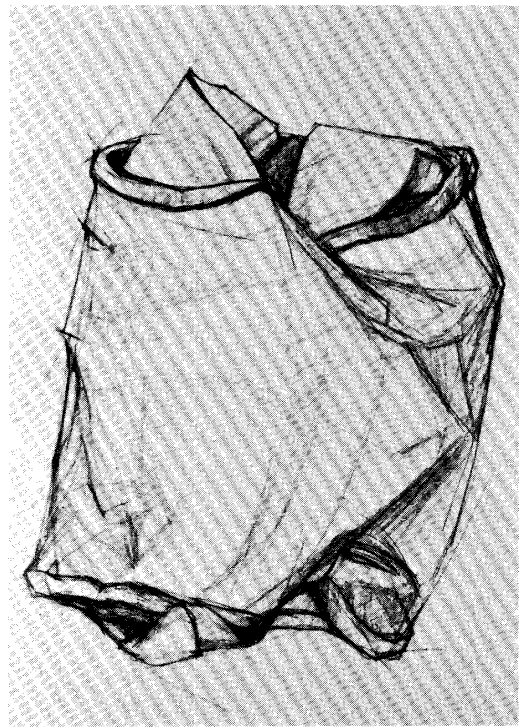


図3 (b)



図4

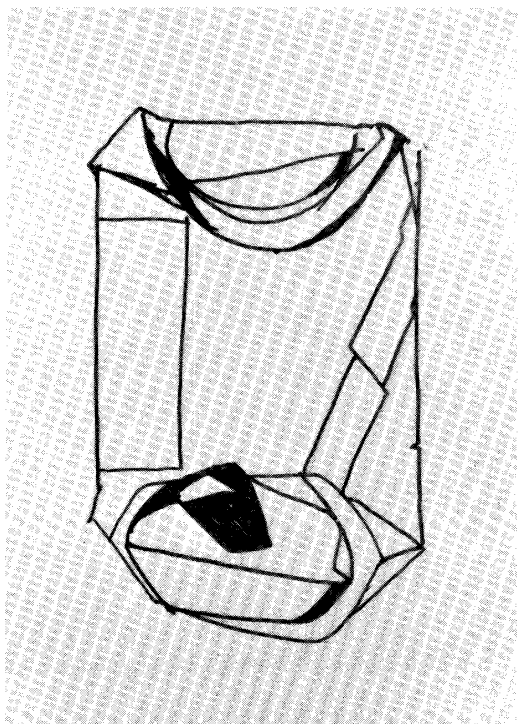


図5

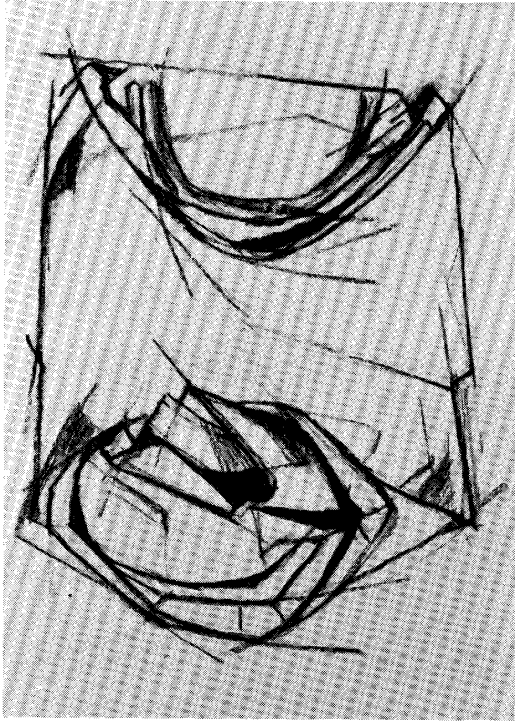


图 6

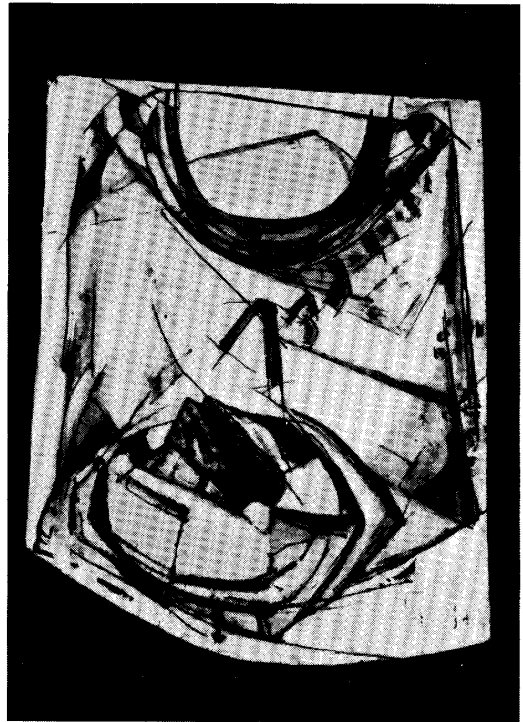


图 7

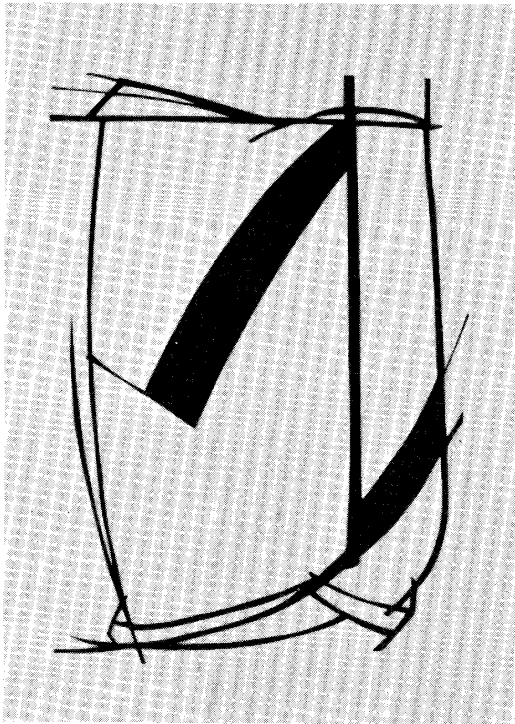


图 8 (a)

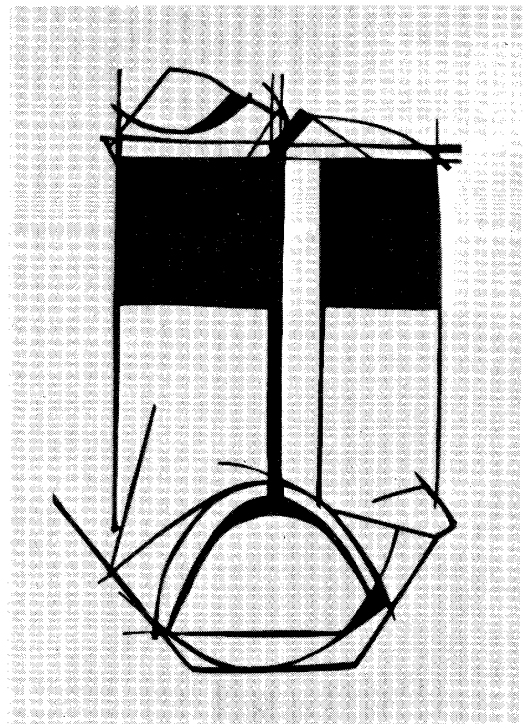


图 8 (b)

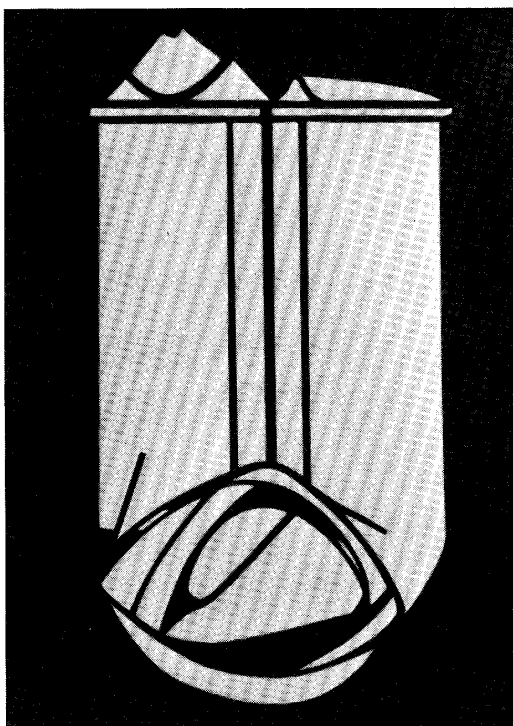


図9 (イ)

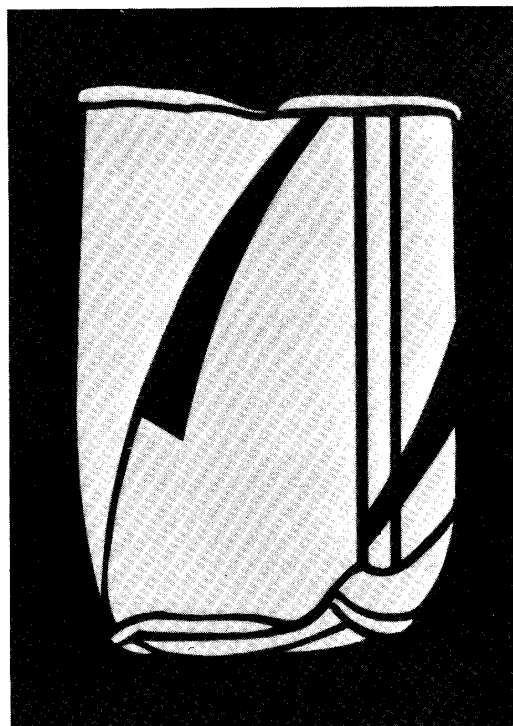


図9 (ロ)

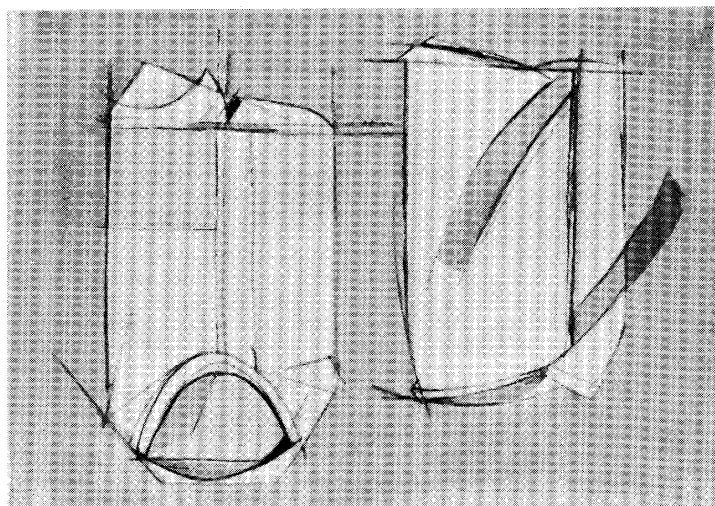


図10

発想から展開を経て作品を表現するまでの段階で最も重視しなければならない点は、モチーフ自身のもつ特徴や表情を失わないように留意することである。

モチーフを観察し解体し単純化した場合でも缶のもつ特性・形態・色彩・量感・実在感を失っては学習の意味を失う。

#### あとがき

ここに掲げた創作過程の一例は、染色実習における表現の方法についてまとめたものであるが、学習指導の在り方について、導入の順序を配慮し、発想から展開の過程を殊に重視して図示解説を加えた。美術的な表現形式を踏んで展開させたために、極めて平凡な進展に終わったきらいがあるが、小・中・高を通じての描画練習を自然な形で抵抗なく押し進める一面はむしろ大切な造形処理と考えてよいのではなかろうか。こうした表現技術の修得の上に立って、新鮮な視覚の獲得と創造性への展開と工夫が考えられると確信する。